

平成16年12月7日
全国内水面漁連 橋本 啓芳

オオクチバスの選定について

1. 基本的な考え方等

- ・ 内水面漁業者は、ブラックバスやブル - ギル等の外来魚の生息域の拡大によって、漁業被害が増大し、漁業経営が成り立たなくなっている。
さらに、その駆除のため、多大の経費と労力を注ぎ込んでいる。
- ・ このため、密放流をいかに防止するかが我々の最重要課題となっている。
全国内水面漁連としては、従来から、ブラックバス等の外来種の生息域を広めたい者がいる限り、密放流はなくならないので、「棲み分け」は不可能であるとの考え方から、国内のブラックバス等の全面駆除を主張してきた。
- ・ 前回の委員会でも発言があったが、釣り団体の方々も「密放流の防止に協力する。」とのことであることから、特定外来種の選定については、基本的に我々全国内水面漁連とも足並みがそろっていると考える。
- ・ 新法により、密放流が直ちに完全になくなるかどうかは疑問であるが、制度的に取締りの仕組み出来ていれば、改善を重ねることにより、密放流の防止が可能となると考えるので、是非オオクチバスも選定願いたい。
- ・ また、元のように在来種が復元できる状況にするためにも、オオクチバスを選定し、一刻も早く法令に基づいた復元措置が必要である。

2. 生息域等実態調査

- ・ 全国内水面漁連は、ブラックバス等の生息域が拡大しているところから調査を実施しているが、平成9年からは、本格的に生息域や影響等の調査を毎年継続して実施しており、また、関係公的機関等においても、以前からかなりの経費・労力を投入して調査・研究を実施していることから、ほぼ、実態を把握できているものと思っている。ただし、密放流の実態は、不明であるので不完全なものとならざるを得ないが、特定外来種の選定問題に対応するための調査資料としては、十分であると考えている。これ以上、生息域を拡大させないためにも、いたずらに先送りさせられない。

なお、今後、防除等のためには、精度を高めることが必要であるので、さらに、密度の濃い調査・研究が必要であると考えている。

3. 質問事項

- (1) バスの釣り人300万人、市場1000億円産業の根拠
- (2) キャッチアンドリリースと子供の情操教育の関係
- (3) 在来生物の復元の手法等